

# 4分の1の議員が(仮称)厚生産業会館関連予算の削除を要求 日本共産党議員団と会派「みらい」の2議員が新年度一般会計予算修正案提出

3月議会は25日、提出された条例や予算などのすべてを可決して終わりました。

今回の議会においては総合事務所の産業建設グループの集約、(仮称)厚生産業会館建設事業など市民から注目された問題がいくつもありません。

このうち、(仮称)厚生産業会館建設事業については、会派「みらい」の中川幹太議員から関連経費の削除を盛り込んだ一般会計の修正案を共同提案できないかとの申し入れがありました。私たち日本共産党議員団では、一般会計予算については、総合事務所の産業建設グループ集約を前提にしている問題や学校給食の民間委託が拡大されるなど他にも黙過できない問題点があるものの、高田区地域協議会の意思を軽んじた市政運営の変更を迫るためにも共同提案することにしました。



修正案は会派「みらい」の中川幹太議員、櫻庭節子議員と日本共産党の3議員で提出、中川議員が説明、上野公悦議員(写真)と櫻庭議員が賛成討論しました。

上越市は、(仮称)厚生産業会館基本構想を確定するにあたり、高田地域協議会やパブリックコメントで出された意見を一部反映させ

たものの、構想の根幹というか基本的なところは高田区地域協議会において不適当とされた当初の基本構想案を変えませんでした。私たちは、さらなる協議や対話に基づいた市民合意なしに平成25年度予算に計上することは適当ではないと判断して削除を求めました。

採決の結果は、提出した私たち5人だけでなく、無所属の永島義雄、石平春彦、石田裕一議員の3人も賛成してくれました。合計で8人が修正案に賛成したことになります。他議員は反対だったため、否決されたとはいえ、議会の4分の1の議員が削除を求めたことは重いと思います。

今回の議会に提案された案件は、報告、決議などを含めて113件、日本共産党議員団はこのうち39件に反対しました。こんなに多くの案件に反対したのは、公の施設の再配置計画の中で本来、市が責任を持つべき福祉施設などの廃止案件がたくさん出たからです。

## 公民館運営新方針で活発な議論

文教経済常任委員会の所管事務調査が21日、行われました。テーマは公民館の運営及び配置に関する基本方針案です。活発な議論となりました。

日本共産党議員団の上野公悦委員は、「分館はこれまで、地域づくりの拠点として機能してきた。単なる貸し館施設という位置付けだと、地域のまちづくりの灯を消すことになるのではないかと懸念を表明しました。

これについて笹川生涯学習推進課長は、「中央公民館及び地区館を教育機関として置き、分館は社会教育事業を行う場としての教育施設と

して考えている。事業は基本的に地区館に集約させてもらい、そこに置く運営委員会に各分館から



【雪割草】わが家の庭の雪割草です。最近、白色の花をつける雪割草が少なくなってきています。

サポーターなどを出してもらい考えていく。必要なものについては分館あるいは分館以外の会場を使って事業を展開していく。まちづくり関係のイベントについては、公民館は橋渡しの役割をしていく形にしたい。いままでの分館の枠を超えていくつかの分館の違う人たちが集い、連携していく中で新しい芽が育っていくのではないかと答えました。

これに対して上野委員は、「分館はまちやむらをつくっていく大きなエネルギーを発揮してきた。これがいくつか集まれば違う芽が出る、そんな問題ではない。これまで活発であったところは更に高めていき、あまり活発でない分館については先進地にならって活発化させていくことが大事だ」と訴えました。

会派、「創風」の武藤正信委員も、「私も上野委員と同じ考えだ。合併後の公民館の果たす役割について共通理解が得られてこなかったというが、行政の指導に問題があったのではない。また、旧上越市の15区には新たに常駐員を配置する一方で、これまで常駐員がいた柿崎と頸城ではないなくなる、この差は大きい。とても承知できない。一律のものに直していくことで弊害がでるのではないかと。さらに、案では、公民館が地域づくりから手を引くイメージがある、こんなことでいいのか」と追及しました。

武藤委員と同じ会派の大島洋一委員も、「問題にしたいのは、活動が活発な地域の気持ちをそぐ施策をされるところがあることだ。なんでレベルを下げなきゃいけないのか」と批判しました。

# 春よ来い 第二四六回 花束

妻が花束を三つもいただいたので、びっくりしました。私もこれまで何度か花束をいただいたことがあります。同じ日に三つももらったことはまだ経験がありません。

妻が花束をいただいたのは今年の三月で定年を迎え、四一年にわたった学校勤務を終えることになったからでした。

正直言いますと、私は花束を見るまで妻が定年になって仕事を辞めるという実感を持っていませんでした。しかもこの日は三月議会の最終日です。離任式という言葉は妻から聞いた記憶が残っていましたが、同じ日にこういう大事な日を迎えるということが頭にしっかりと入っていませんでした。

最初、妻がテーブルの上に置いた花束は一つでした。薄いピンク色したユリを中心に、カーネーションやバラなどが入った豪華なものでした。色も白、ピンク、赤、黄、緑とまさにいろいろあって、きれいです。しかも、ユリが素敵な香りを漂わせ、とてもいい気分させてくれます。

花の一つひとつに見入っていたところ、妻が、「じつは車の中には花束がもうふたつあるの」と言うんです。驚きましたね。

花束の一つは離任式の時に贈っていたものです。これは生徒会から。二つ目は送別会の際、職員の皆さんからいただいたものだそうです。そしてもう一つは、いつの時点だか聞いていませんが、顧問をしていた茶の湯同好会の生徒の皆さんからのプレゼントでした。

妻によると、この日は挨拶をする場面が三回もあったといっています。おそらく、花束をもらった時点ででしょう。数日前までは「挨拶するのがたいへんだから休もうかしら。辞める人や転勤する人が大勢だから、たいして目立たないだろうし」などと言っていました。まあ、半分は冗談だったのでしょうか。でも、そういうことを口にしていた割には、挨拶の内容そのものにふれませんでしたので、案外うまくいったのかも知れません。

花束はいくつあっても困ることはありませんが、この目出たい花束はおすそ分けしなきゃ、と思いました。この点は妻も私と同じ考えでした。花束の一つは私の母に贈ることにしました。もうひとつは、妻の母親、柏崎の母に贈ることに決めました。

その日は夜遅くなったので、母に花束を渡したのは翌日の朝です。もちろん、母に渡す前に儀式をしました。写真撮影です。明るくなった玄関前で妻が花束を持っていくところを写真に収めました。そして花束そのものも大きく撮りました。これでオーケーです。妻の離任式がいつかという話は母にはほとんどしてなかったもので、花束を受け取った母は、「まあ、こんがもらうていいがかね」とびっくり顔でした。

母に手渡された花束は夜に見た感じとずいぶん違いました。花の色はより鮮やかになっています。ユリは一晚経つただけなのに花の開きが広がったように見えました。

花束を母にプレゼントしてまもなく、妻も私も出かけました。だから、その後のことはまったく見てはいなかったのですが、家に帰って来ると、母がうれしそうに語ってくれました。花束は仏壇のところに持っていき、「じちゃ、ほら、花もらったよ」と父に見せたというのです。母の顔から推察すると、「へー、そりゃ、良かったな」という父の言葉が母には聞こえたのかも知れません。

## 吉川小学校で10回目の卒業式

吉川小学校の卒業式が24日行われました。吉小の卒業式は今回で10回目です。50人の卒業生を送り出しました。

校長の八島先生の「はなむけの言

葉」には惹きつけられました。先生は、「尾神岳にも暖かな春の陽が差し、春はここまで来ました」と切り出し、「なかよし学年」と言われた6年生のこれまでの頑張りを讃えた後、「中学校は3年間しかない。（やるべきことは）『あとで』、『また』と先送りすることなく、何事も失敗を恐れず全力をあげてほしい」と訴えました。

「なかよし米を育て、一粒の命の大切さを学びました」など、卒業生と在校生が対面式で言葉を掛け合う、「送る言葉」「お別れの言葉」もよかったです。「なかよし学年」のみなさん、良かったね、おめでとう。



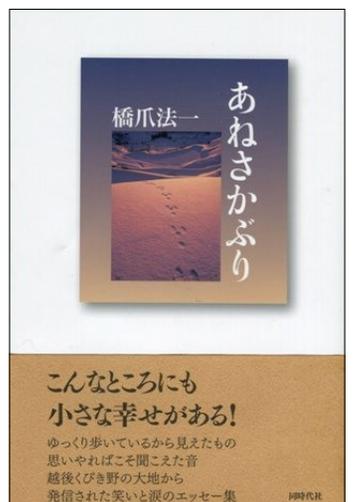
上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	3月20日(水)	3月27日(水)
上越南消防署	0.040	0.033
上越北消防署	0.047	0.060
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.047	0.037
東頸消防署	0.043	0.043
高土分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.060	0.060

私の4冊目の随想集が完成しました。タイトルは『あねさかぶり』（同時代社、千円）です。春陽館、柿村書店、吉野書店、佐藤書店、南部堂で販売しています。本書はこのレポートで書き続けている「春よ来い」の一昨年の文を中心にとまとめたもの。文中の仮名を实名にしたもの、補筆したものもあります。私の携帯電話（090・5392・1961）に連絡くだされば、お届けします。

新しい随想集は、

『あねさかぶり』



# 春よ来い 第二四六回 花束

妻が花束を三つもいただいたので、びっくりしました。私もこれまで何度か花束をいただいたことがあります。同じ日に三つももらったことはまだ経験がありません。

妻が花束をいただいたのは今年の三月で定年を迎え、四一年にわたった学校勤務を終えることになったからでした。

正直言いますと、私は花束を見るまで妻が定年になって仕事を辞めるという実感を持っていませんでした。しかもこの日は三月議会の最終日です。離任式という言葉は妻から聞いた記憶が残っていましたが、同じ日にこういう大事な日を迎えるということが頭にしっかりと入っていませんでした。

最初、妻がテーブルの上に置いた花束は一つでした。薄いピンク色したユリを中心に、カーネーションやバラなどが入った豪華なものでした。色も白、ピンク、赤、黄、緑とまさにいろいろあって、きれいです。しかも、ユリが素敵な香りを漂わせ、とてもいい気分させてくれます。

花の一つひとつに見入っていたところ、妻が、「じつは車の中には花束がもう一つあるの」と言うんです。驚きましたね。

花束の一つは離任式の時に贈っていたものです。これは生徒会から。二つ目は送別会の際、職員の皆さんからいただいたものだそうです。そしてもう一つは、いつの時点だか聞いていませんが、顧問をしていた茶の湯同好会の生徒の皆さんからのプレゼントでした。

妻によると、この日は挨拶をする場面が三回もあったといっています。おそらく、花束をもらった時点ででしょう。数日前までは「挨拶するのがたいへんだから休もうかしら。辞める人や転勤する人が大勢だから、たいして目立たないだろうし」などと言っていました。まあ、半分は冗談だったのでしょうか。でも、そういうことを口にしていた割には、挨拶の内容そのものにふれませんでしたので、案外うまくいったのかも知れません。

花束はいくつあっても困ることはありませんが、この目出たい花束はおすそ分けしなきや、と思えました。この点は妻も私と同じ考えでした。花束の一つは私の母に贈ることにしました。もうひとつは、妻の母親、柏崎の母に贈ることに決めました。

その日は夜遅くなったので、母に花束を渡したのは翌日の朝です。もちろん、母に渡す前に儀式をしました。写真撮影です。明るくなった玄関前で妻が花束を持っていくところを写真に収めました。そして花束そのものも大きく撮りました。これでオーケーです。妻の離任式がいつかという話は母にはほとんどしてなかったもので、花束を受け取った母は、「まあ、こんがもらうていいがかね」とびっくり顔でした。

母に手渡された花束は夜に見た感じとずいぶん違いました。花の色はより鮮やかになっています。ユリは一晚経つただけなのに花の開きが広がったように見えました。

花束を母にプレゼントしてまもなく、妻も私も出かけました。だから、その後のことはまったく見てはいなかったのですが、家に帰って来ると、母がうれしそうに語ってくれました。花束は仏壇のところに持っていき、「じちゃ、ほら、花もらったよ」と父に見せたというのです。母の顔から推察すると、「へー、そりゃ、良かったな」という父の言葉が母には聞こえたのかも知れません。

## 新婦人が楽しい、新春の集い

新婦人上越支部主催の「新春の集い」が24日にあり、来賓として参加してきました。私からは行政組織の変更など新年度の市政の課題について話をさせていただきました。

会場ではパッチワークや絵手紙、

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	3月20日(水)	3月27日(水)
上越南消防署	0.040	0.033
上越北消防署	0.047	0.060
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.047	0.037
東頸消防署	0.043	0.043
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.060	0.060

短冊などがたくさん展示されていて、みんなが楽しみながら活動している様子が伝わってきました。絵手紙では野の花の絵がたくさんあり、興味深く拝見。短冊に書かれた俳句のひとつに「あやしげな 光をはなつ 恋蛩」というのがありました。どんな方がつくられたのでしょうか。

さて、集いでは、TPP反対で頑張る朝日池総合農場の平澤栄一さんがトークと歌で

登場、集まった皆さんをうっとりさせました。♪見渡す限り 黄金がゆれる 耕して生き抜く 百姓がいる……、これは「収穫、歓喜」という歌、とても素敵な歌でした。



### 新しい随想集は、『あねさかぶり』

#### 『あねさかぶり』

私の4冊目の随想集が完成しました。タイトルは『あねさかぶり』（同時代社、千円）です。春陽館、柿村書店、吉野書店、佐藤書店、南部堂で販売しています。本書はこのレポートで書き続けている「春よ来い」の一昨年の文を中心にまとめたもの。文中の仮名を实名にしたもの、補筆したものもあります。私の携帯電話（090・5392・1961）に連絡くだされば、お届けします。

